

堀之内貝塚南側斜面について

堀越正行

1. 堀之内貝塚に立つ

堀之内貝塚は、1904（明治37）年10月16日に東京人類学会創立20周年の祝賀行事として実施された記念遠足会の会場に選ばれた、栄ある貝塚である。その選定の理由は、堀之内貝塚は東京に近く、交通の便がよく⁽¹⁾、しかも大きな貝塚であることであったらしい。これに加えて山林が多い⁽²⁾ので、作物の補償をする必要がないため気兼ねなく掘れたということもあったに違いないが、その分、藪や根と格闘せねばならなかった。爾来、有名無名の多くの考古学研究者・愛好者が必ず貝塚発掘にあたってチャレンジする登竜門の実習地という側面を持った、全国的にも有名な貝塚となっていったのである。このように考古学の世界で周知される一方、地元市川市の盆踊りには欠かせない市川音頭の歌詞に、“♪掘れば出る出るあの堀之内”という一節があるように、市民にも周知された貝塚となっている。

私をはじめ堀之内貝塚に立ったのは、市川市立中国分小学校の建設予定地の試掘調査に参加したときである。はっきりした年月日は覚えていないが、1968（昭和43）年のことだったと思う。その余った時間を利用して、北の谷⁽³⁾底の未舗装の道を車で西に進んだのであるが、さながら深山幽谷に入った気分になったことを覚えている。そして堀之内貝塚へ入る道は、今は区画整理された考古博物館東側の擁壁下の道とは微妙にクランク状になっている、博物館の駐車場手前の東の道がその名残りなのである。その入口から左折して谷底の畑を横切ると、今の考古博物館北側の山裾に突き当たり、今度は右折して山裾に沿って道を進む。今でいえば駐車場の南端から歴史博物館の屋外便所脇の崖上を登りつめると台地の上にあがり、その先の駒形社の祠に至る。台地の左手（東側）には一区画の畑があり、前方（南側）と右手（西側）は鬱蒼とした林であった。その祠の手前から北側の斜面を進むと、史跡堀之内貝塚の石碑があり、周囲には第1次指定当時のフェンスが廻らされていた。それまで行ったことのある千葉市の馬蹄形貝塚とは、まるで異なるタイプの貝塚であることを知ったのである。

当時の市川市の採用試験は早く、夏に試験、10月中旬には合否通知があり、幸いに何とか合格した。就職は内定していたけれども、1972（昭和47）年の秋の博物館の開館までに残された時間はわずかしかないという切羽詰まった状況－博物館の建